

病院長就任の挨拶



平成29年4月から久留米大学病院長を拝命しました。病院長就任にあたり、ご挨拶申し上げます。私は、これまで副院長として4年間、診療情報センター、薬剤部、栄養部、高額医療機器選定委員会、内視鏡手術センター、病院倫理委員会を担当してきましたが、病院経営に直接関わり、また教育や地域医療を充実させる中心的存在である院長の重責を徐々に感じているところです。在院日数の短縮、効率化に伴い、特定機能病院として地域医療施設との連携強化に関して今まで以上に強化していかなばならないと考えております。各診療科レベルで、地域の医療機関の先生方のお考えも忖度し、確実に実践できるよう、連携を今まで以上に密に取ってゆきたいと考えています。更に今後、地域医療構想、新専門医制度など医療環境の急激な変化にいち早く対応するため、より一

層の地域の医療機関の先生方との意見交換を積極的かつ速やかに遂行し、協力体制を構築できるように積極的に行動してゆきたいと考えています。改革の時代である、今こそ情熱的で、常に感謝の気持ちを持ち、そしてチャレンジ精神旺盛な院内はもとより地域の医療機関の先生方との強固なチームワークを目指したいと思います。質の高さに裏打ちされた最先端の医療を患者さんに提供するために、精一杯努力致しますので、ご理解とご支援を宜しくお願いします。

平成29年4月

病院長

八木 実

病院執行部体制

病 院 長	八木 実 (新)
病院長特別補佐	志波 直人 (新)
副 院 長	山川 良治
	上野 高史
	鳥村 拓司
	田中 芳明
	渡邊 浩 (新)
	福本 義弘 (新)
	高須 修 (新)
	上野 知昭 (新)

私たちの理念

人と地球にやさしい、生命を慈しむ医療

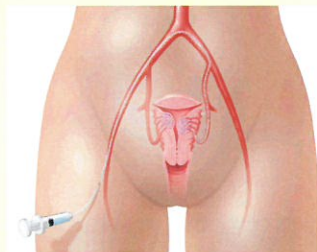
私たちのめざす医療

- 1. 患者中心の医療**
生命の尊厳にもとづき、患者や家族の権利を尊重し、心のかよう医療を行います。
- 2. 共生の医療**
地球環境にやさしい共生の医療をめざします。
- 3. 高度で安全なチーム医療**
安全性を確保し、高度で専門的なチーム医療の確立をめざします。
- 4. 地域と共に歩む医療**
地域医療機関との連携を密にした、継続性のある医療を行います。
- 5. 優れた医療人の育成**
教育機関として高水準の医療技術と思いやりを備えた医療人の育成に努めます。

TOPICS

●保険診療による子宮筋腫に対するカテーテル治療

子宮筋腫に対するカテーテル治療（子宮動脈塞栓術：UAE）を2016年11月より開始しました。保険診療による本治療は、九州の大学病院では初めてです。UAEは500-900 μ mの粒子状塞栓物質にて子宮動脈を塞栓し、筋腫を縮小させ、症状（過多月経、疼痛、圧迫感）を緩和します。UAEは局所麻酔、数mmの小切開にて施行し、短期入院（3-4日間）および子宮温存が可能です。治療効果は、筋腫縮小率50-60%、腫瘍感の低減率90%、不正出血消失率90%、症状消失の割合90%、患者満足度80-90%、また合併症は感染や筋腫分娩、卵巣機能不全などで、頻度は2%程度と言われています。当院では婦人科医師と密に連携をとりUAE前診断（超音波診断、子宮頸部・体部の内膜細胞診、MRIなど）から治療後合併症対策まで万全を期し、質の高い治療を心がけています。



担当医師：小金丸 雅道

●乳がん精密検査の受付時間について

久留米大学病院は、乳がん精密検査実施登録医療機関でありますので、乳がん一次検診で要精密検査となられた方の精密検査を行っております。尚、久留米大学病院は地域がん診療連携拠点病院でありますので、乳がんと診断された方の精密検査や治療を日常臨床として行っており、治療が必要な方は外来予約制にて優先した診療を行わせて頂いております。つきましては、待ち時間をなるべく少なくするため乳がん精密検査が必要な方の受付時間を限らせて頂いております。

診療科：乳腺外科・一般外科総合外来

受付時間：月、水、金（祝日を除く） 午前10時～11時まで（予約制ではありません）

診療内容：視触診、マンモグラフィ、超音波検査等

*検査結果は、検査当日にご説明しておりますが、当日の受付数で待ち時間が異なることをご了承ください。

新任診療部長紹介

平成28年1月1日就任



教授
くろまつ りょうこ
黒松 亮子
(超音波診断センター長)

消化器内科

1. 久留米大学（昭和61年卒業）
2. 肝臓、腹部超音波検査
3. 超音波診断センターでは、従来、各診療科で個々に行っていた検査を一箇所に集約することにより、最新の装置を用いた質の高い検査を提供することを目指しています。高齢化が進み、患者さんに負担の少ない超音波検査のニーズは増加しています。また、装置の進化も目覚ましいものがあります。検査技師とともに最新の医療を提供し地域医療に貢献できるよう努力していく所存です。ご指導、ご協力を頂けますようお願い申し上げます。

1. 出身大学（卒業年）
2. 専門の臨床領域
3. ご挨拶

平成28年1月1日就任



教授
ひろはた まさひろ
廣畑 優

脳神経外科

1. 久留米大学（昭和62年卒）
2. 脳卒中、脳神経血管内治療
3. 脳主幹動脈の急性閉塞による脳梗塞（心源性脳塞栓症）は、脳血管内治療により閉塞血管を再開通させることで良好な転帰が期待できますが、発症から再開通までの時間が30分遅くなるごとに転帰良好な患者さんの数が15%ずつ減少していきます。久留米大学脳神経外科では24時間365日この治療が可能な体制を維持しておりますし、再開通率もここ数年間は100%を維持しております。地域の先生方におかれましては急性期脳卒中を疑われましたら久留米大学病院へのご紹介をお願いいたします。皆様からのご指導、ご協力を頂ければ幸いに存じます。

医療連携センター長就任の挨拶

この度、鳥村拓司副院長の後任として医療連携センター長を拝命しました感染制御科の渡邊 浩と申します。

久留米大学病院医療連携センターは、高度医療を担う「特定機能病院」として、地域医療機関との連携を通じ、患者さんの治療の継続性の確保と医療情報の共有化を図り、地域医療の発展に寄与することを目標に掲げ、地域医療機関との「病診連携」、「病病連携」の充実、円滑化に取り組んでまいりました。しかし、他の多くの地域と同様に久留米大学病院周辺の医療圏も徐々に人口減少をきたし、久留米大学病院では十分な病床利用が維持できていないのが現状です。

このような環境の変化に対応するためには、これまで以上に地域医療機関との連携を深め、簡便かつ心の通い合う患者さんの紹介および逆紹介が必要であると考えます。医療連携センターに携わる職員一同が誇りをもち、一致団結した仕事ができる環境を作り、地域医療機関や患者さんに満足して頂けるように頑張っている所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



平成29年4月

医療連携センター長 渡邊 浩



副センター長（専任）
（外科）

山口 圭三



副センター長
（副院長・看護部長）

上野 知昭



副センター長
（小児外科）

七種 伸行

医療連携センターの目標

高度医療を担う「特定機能病院」として、地域医療機関との連携を通じ、患者の治療の継続性の確保と医療情報の共有化を図り、地域医療の発展に寄与する。

医療連携センターの業務方針

1. 患者の福利増進のため権利と人格を尊重し、問題解決のため誠実に対応する
2. 地域医療機関と顔の見える関係を構築し、地域のニーズに応える
3. センター職員としての専門的な立場からチーム医療に貢献する
4. センター職員としての専門的な立場から病院経営に貢献する
5. 医療安全と危機管理及び個人情報保護の徹底に努める
6. 患者が最適・最良の選択ができるよう、医療相談員としての資質向上に努める

平成29年度 医療連携センター スタッフ紹介

患者さんと医療機関の皆様のお力になれるよう がんばります!!

連携事務担当 (事務室長1名、事務7名)

- ◆連携業務に関する情報提供・広報活動
- ◆紹介・逆紹介データ管理
- ◆関連医療機関連絡調整
- ◆入退院患者支援業務
- ◆紹介患者の外来診療予約(紹介予約センター)



前列左より
松本三千代、牟田 薫、久木原昇(事務室長)、
中島理世、中山麻衣子
二列目左より
(紹介予約センター) 西田祥代、森 裕子、田中洋子

ベッドコントロール担当

(副看護部長1名、看護師4名)

- ◆病床管理
入退院状況把握・急患受入対応
- ◆入退院患者支援業務



前列左より
川邊佳子、古賀真由美(副看護部長)、黒田明子
二列目左より
野中公美子、郷田佐代子

退院支援・医療福祉相談担当

(看護師4名、MSW7名)

- ◆退院支援(在宅・転院)
- ◆社会資源紹介、患者受診・受療援助
- ◆経済的・心理的・社会的問題等の解決援助
- ◆院内外からの医療相談



前列左より
(看護師) 秋吉知子、川口真理、石橋紀子、中村寿賀子
(MSW) 青木正恵、花島りか
二列目左より
(MSW) 住吉美香、堤 慶子、神代 潤、大里文誉、今給黎陽

【がん相談支援センター】(看護師2名)

- ◆がん相談、セカンドオピニオン外来調整

【認知症医療センター】(PSW1名)

- ◆認知症に関する相談支援



左より
(PSW) 霍久裕貴
(看護師) 廣畑紀世、原 美穂

今年度も引き続き、よろしくお願いいたします。